

われわれは遺族の相互扶
助、道義の高揚につとめ、
平和日本建設に寄与し、戦
争の防止、世界恒久平和の
確立を期するを信条とする。



発行所 〒703-8272
岡山市中区奥市3-22 岡山県遺族連盟
電話代表 086-271-7175
FAX 086-271-4815
郵便振替 岡山01230-9-3532
発行責任者 岸本清美
編集責任者 豊島始男
印刷所 西尾総合印刷株式会社
定価(郵税共) 年額1,200円
ホームページ <http://izoku-okayama.jp/>

岡山県遺族連盟創立65周年記念式典 県下遺族会から七百人が参列し挙行

岡山県遺族連盟は、戦後間もない昭和二十二年十一月に岡山県遺族平和連盟として発足以来、今年で創立六十五周年を迎え、十一月十七日(土)、岡山市中区古京町「岡山衛生会館」において、県下各遺族会代表約七百人参集のもと、創立六十五周年記念式典を挙行了した。

岡山県遺族連盟は設立以来、実に六十五年の歳月を重ねてきた。この間、数え切れない程の課題に直面したが、片山仁初代会長から逢沢寛(二代)会長、伊藤大孝(三代)会長、浅野富男(四代)会長、近常寧(五代)会長、そして岸本清美現会長と組織は引き継がれ、会員一致協力のもと難題解決に邁進してきた。

この間、遺族会を支えてこられた諸先輩方の血のにじむような努力により、国家補償の理念に基づく公務扶助料・遺族年金等の改善は勿論のこと、遺児に対する慰藉である慰霊友好親善事業の充実など、戦没者遺族への処遇は逐年、改善が図られてきた。しかし、国に尊い命を捧げられたご英霊



岡山県遺族連盟創立65周年記念式典 (11月17日)

の慰霊顕彰、特に国とご英霊、遺族との約束であった靖國神社護持は、今なつた反面、あの悲惨な戦争の記憶が遠い過去に残念な思いである。

戦後六十七年、我が国は世界も羨む経済大国となつた反面、あの悲惨な戦争の記憶が遠い過去に残念な思いである。

記念式典の概要

式典は、服部剛司副会長、坂根弘子常任理事の司会により定刻の午前十時三十分の開式となつた。近常寧副会長が開式の辞を述べた後、全員が起立して国歌を斉唱。そして、祖国の安寧と家族の幸せを念じつつ散華されたご英霊に黙祷を捧げた。

次に、岸本清美会長がご列席をいただいた来賓の方々へお礼を述べた後、続いて「本会創立以来、ご尽力を賜った先達の方々に敬意と感謝の意を表します。今後とも志を一層固くし、精進努力をして参る覚悟であります」と、創立六十五周年にあつたの決意を述べた。そして、このたび就任された伊原本隆太新知事、そして内山登良議長をはじめ、公務ご多忙にも拘わらずご臨席をいただいた来賓の方々からご祝辞を賜り、続いて司会者が祝電を披露した。次いで、長年、ご英霊の慰霊顕彰と遺族援護、

る。しかし、歴史を顧みない、歴史を失つた国は必ず滅ぶとの教えがあるように、今の我が国は危機的な社会状況に陥っている。

このような状況下、私たちは遺族会は、ご英霊の勲、そして誇りある祖国の歴史を次世代を担う若い世代に伝え、道義ある

祖国復活・日本国再生に全力を傾注し、今は声なきご英霊にお応えする大きな責任があることを今一度、思い起こさなければならぬ。

会員の高齢化、そして目まぐるしい社会情勢の変化など、遺族会を取り巻く環境は一段と厳しくなっているが、様々な苦難を乗り越えて来られた先人たちに思いを致し、今後とも一致結束して遺族運動にご支援をいただくようお願いする。

そして組織運営にご尽力をいただいた方々の表彰に移り、先ず、岡山県知事表彰を受賞された四名の方々のお名前を司会者が発表。秀平良子氏(県連盟副会長・女性部長/笠岡市)が、受賞者を代表して伊原本県知事から表彰状と記念品を受領した。続いて、日本遺族会会長表彰受賞者三名を代表して古家野亘氏(県連盟監事/岡山市灘崎)が、畔上和男日本遺族会専務理事から、また、岡山県遺族連盟会長表彰受賞者百五十三名を代表して、山本よし子氏(県連盟評議員・女性部副部長/総社市)が岸本県遺族連盟会長から表彰状と記念品を受領した。そして、被表彰者を代表して古家野亘氏が「受賞の栄に恥じないよう、今後とも遺族会活動に精進努力するこ

- とをお誓いします」と謝辞を述べた。
- 次に、難波慶行常任理事の発声により全員で万歳を三唱。平田晶三副会長が閉式の辞を述べ、午前十一時三十五分、創立六十五周年記念式典を終了した。
- 記念式典にご臨席をいただきました来賓の方々には次のお礼申し上げます。あらためてお礼申し上げますと共に、今後ともご英霊の慰霊顕彰と遺族援護にご支援を賜ります様お願い申し上げます。
- (順不同)
- 岡山県知事 伊原本隆太 様
 - 岡山県議会議長 内山 登 様
 - 国會議員 逢沢 一郎 様
 - 加藤 勝信 様(夫人)
 - 阿部 俊子 様
 - 平沼 赳夫 様(代理)



各表彰受賞者を代表し謝辞を述べる古家野氏



岡山県知事表彰を受ける秀平良子氏



日本遺族会会長表彰を受ける古家野亘氏



県連盟会長表彰を受ける山本よし子氏

県連盟創立六十五周年 各表彰受賞者

- 片山虎之助 様(代理)
日本遺族会専務理事
畔上 和男 様
自民党第二選挙区支部
長
山下 貴司 様
- 自民党第四選挙区支部
長
橋本 岳 様
岡山県護国神社補宣
河野 薫 様
- 播間 友恵、羽根岡洋子
武本 和子、渡邊 禎子
【岡山市西大寺】5名
渡邊 光章、中村 薫成
藤原 武範、青井 達
森 勝子
【岡山市上道】1名
難波富士子
【岡山市北】4名
柴田 本次、廣瀬 哲也
岸本 勉、穂山 国衛
【岡山市南】3名
竹内 晃子、澤田 耕平
木村 勝
【岡山市御津】1名
山河 清住
【岡山市瀬崎】1名
岡 綾子
【岡山市建部】1名
榎本 省三
【岡山市瀬戸】2名

- (順不同・敬称略)
◎岡山県知事表彰 4名
秀平 良子(笠岡市)
渡辺 雅允(浅口市郡)
渡邊 繁雄(井原市)
寶藏 史朗
(岡山市上道)
◎日本遺族会会長表彰 3名
古家野 亘(岡山市瀬崎)
- 高橋 生人(岡山市瀬戸)
浅沼 義廣(岡山市南)
◎岡山県遺族連盟会長表
彰
【岡山市岡山】14名
那須 洋一、眞富 久典
松本 好厚、赤沢 徳三
渡邊 格、小橋 郁夫
磯島 熙和、浅野 学
池本 誠一、久住 明子
【岡山市瀬戸】2名
- 藤原 誠子、額田 克美
小田清八郎、藤原 孝恵
高田 清子、飯田 竜彦
岡本 忠、山砥 幸子
大崎 勇、渡辺 育子



創立65周年を祝い万歳三唱

- 中島 滋、佐々木登美子
【倉敷市児島】4名
村上 務、小島健一郎
岸本 裕美、並川 成子
【倉敷市玉島】7名
中川 征子、小野 一正
楠戸満里子、赤沢 正巳
吉澤 睦子、滝澤 昌子
井上 晴夫
【倉敷市真備】2名
小野 栄治、河田 勇雄
【津山市】8名
有芳 智、水島 一男
押目 靖雄、谷本 英子
香山 康二、高山 暉浩
前原 清、寺坂 匡克
【玉野市】6名
河合 輝昌、石田美智子
上田 京子、塩尻 徹
松浦満利子、長畑 耕二
【笠岡市】7名
高田征八郎、江木 正人
大本 伸一、山川 善彦
河田 榎子、大島 路子
広井 敬一
【井原市】7名
川合 進、北田 功
森定 清二、三宅 剛
中山 隆憲、藤田 信忠
竹井 忠志
【総社市】4名
山本よし子、小西 和義
木口 孝子、鷺見 勲
【高梁市】8名
千葉 剛敏、井上 昭雄
- 葛原 淳士、荒木 一郎
杉田 恒夫、土谷 稔
大月 健一、武田 道男
【新見市】8名
宮本ノブエ、寺奥 良江
伊田 美登、大村 清
田本 景忠、池田 光雄
小川 勝、柴床 郷一
【備前市】5名
石原 忠美、岡 鶴子
末広 恒子、赤城 貞女
木元 久美
【瀬戸内市】5名
那須 定彦、蟻正 昇一
横山智恵子、北浦 壮徳
小山 照夫
【赤磐市】4名
光岡 豊治、森 重信
森田精一郎、高原 充子
【真庭市】10名
谷宗 勇、母里由太郎
久保田信江、岡田 良雄
浅野 實、小野田守利
松尾 瑞枝、大倉 操
美甘 兼武、津村 章
【美作市郡】6名
岡野 卓夫、富阪 皓一
- 小林 博巳、鉦先 晴之
小淵 脩、豊久百合子
【浅口市郡】6名
笠原 敏子、大島 靖幸
田口 尚義、高戸 安代
坂本 岩男、平野 嘉子
【和気郡】2名
万代 敬二、延原 圭一
【小田郡】2名
小林 深、大山 圭子
【真庭郡】1名
三嶋 彬允
【苫田郡】3名
安井 計宣、森江 光江
河田 匡弘
【久米郡】4名
福田 信、小林 寮全
山崎 慶昭、山下 修
【加賀郡】2名
難波 忠純、山本 政美

式 辞

ご英霊鎮まる岡山県護国神社の木々も色づいて、秋深まる本日、ここに財団法人岡山県遺族連盟創立六十五周年記念式典を挙行するにあたり、公務ご多忙にも拘わらず、岡山県知事・伊原木隆太様をはじめ、内山登岡山県議会議長、地元選出の国会議員の諸先生方、そして中央本部・日本遺族会から畔上和



男専務理事、水落敏栄顧問ら多数のご来賓をお迎えし、かくも盛大に記念式典を開催できますことは、本会にとりましてこの上ない光栄であり、大きな喜びであります。

顧みますれば、本会の前身であります岡山県遺族平和連盟が結成されましたのは終戦間もない昭和二十二年十一月でありました。当時の我が国は、敗戦による廃墟と混乱、そして厳しい占領政策の下、戦没者遺族の物心両面にわたる苦境は筆舌に尽くしがたいものであります。

こうした戦後の混乱の中、ひたすら国の安泰と私たち家族の幸せを願いつつ、尊い生命を国に捧げたご英霊の志にお応えしなければと、私ども戦没者遺族は一致団結して立ち上がり、互いに助け合い、励まし合いながら組織づくりに奔走し遺族運動の歩みが始まりました。

爾来、本会のご英霊の顕彰と遺族の福祉向上、更には平和日本建設に寄与することを目的として、幾多の困難を乗り越えて真摯に活動を続けてまいりました。

今日まで、各界・各層の皆様方の深いご理解とご援助のもとに、戦没者遺族が一家を守り、国の再建に初志を貫き通すことができましたことは私たちの喜びと誉れであります。本会創立以来、ご尽力を賜りました先達の方々に心から敬意と感謝の意を表しますと共に、国・地方自治体をはじめ、県民の皆様から戦没者遺族に寄せられました一方ならぬご支援に深甚なる感謝を申し上げます。

戦後六十有余年、ご英霊が案じられた我が国は、官民一体となつて幾多の困難を乗り越え、今日の平和と繁栄を築き、世界も羨む経済大国として発展いたしました。私たち戦没者遺族は、この豊かで平和な生活が、祖国の繁栄と安泰を念じつつ散華されたご英霊の尊い犠牲のうえに成り立っていることを決して忘れることなく、今後も志を一層固くし、戦争のない平和な社会を確立するため一層の精進努力を

して参る覚悟であります。

今日の佳き日を迎えるにあたり、ご臨席のご来賓並びに関係各位の今後一層のご指導・鞭撻を衷心よりお願い申し上げますと共に、併せて皆様のご健勝

妻・父母特給の継続など 遺族処遇改善要望事項の完全実現を求め

岡山県戦没者遺族代表者大会を開催

岡山県遺族連盟では、十一月十七日（土）に「岡山衛生会館」で行った創立六十周年記念式典の終了後、引き続き岡山県戦没者遺族代表者大会を開催した。大会では、総理等の靖国神社参拝を求めると共に、戦没者の妻・父母に対する特別給付金の継続・増額等、平成二十五年政府予算の概算要求に計上された遺族処遇改善要望事項の完全実現などを決議した。

平成二十四年度岡山県戦没者遺族代表者大会は、記念式典に引き続き、服部副司副会長の司会により午前十一時五十分

に開会した。挨拶に立った岸本清美会長は「昨日、衆議院が解散し、来月四日の公示、十六日投票の日程で総選挙が行われます。三年間の民主党政権で混乱した日本国を立て直す、失われた誇りを取り戻さなければ我が国に明るい未来はありません。歴史と伝統に根差した真の政治復活を自民党に期待するも

ご多幸を祈念いたしまして式辞といたします。

平成二十四年十一月十七日

財団法人岡山県遺族連盟
会長 岸本清美

岡山県遺族連盟

のであります。そして、戦没者遺族代表者大会は、新総理・閣僚には是非とも靖国神社に参拝していただき、私たちの悲願を実現していただきたい」と述べ、挨拶を結んだ。次に、浅野實副会長が議長に就任し、大会の宣言・決議の採択に入



遺族代表者大会で挨拶する岸本県連盟会長（11月17日）

十二月十八日に自民党本部で全国大会を開催し、引き続き国会陳情を予定していたが、衆議院が解散し、十二月に総選挙が執行されることから、来年度政府予算の越年編成が確実となったため、全国大会・陳情を中止。今後の政治情勢等を注視しながら、あらためて大会日程などを決定することとなった。

そして、全員が起立し「靖国神社の歌」を合唱、秀平良子副会長（女性部長）が閉会の言葉を述べ、午後十二時三十分、大会を終了した。

なお、日本遺族会では

宣言

戦後六十七年が経過し、我が国は世界に類を見ない目覚ましい復興を遂げ、国民は等しく平和と自由を享受する一方、あの悲惨な戦争の記憶は遠く忘れ去られようとしている。また、世界各地では未だ紛争が絶えず、罪のない尊い生命が今もなお失われ続けている。我々戦没者遺族は「二度と戦争をしてはならない。我々のような遺族を出してはならない」という原点を決して忘れることなく、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代へ語り継ぎ、世界平和の実現に心血を注いで行かなければならない。

しかし、国に一命を捧げたご英霊が鎮まる靖国神社への内閣総理大臣の参拝は、平成十八年八月以降途絶えており極めて遺憾である。国とご英霊との約束を蔑ろにし、依然として高圧的な近隣諸国への配慮を続ける現政権の姿勢は、ご英霊が一命を捧げた誇りある祖国の姿とは全く掛け離れている。

更に、現政権は靖国神社に代わる新たな国立の戦没者追悼施設建設を政策に掲げている。我々遺族のみならず、多くの国民が靖国神社こそ我が国唯一の戦没者追悼施設と考えており、靖国神社そのものを否定する追悼施設の建設は断じて許すことはできない。我々は政府に対し、いかなる困難があろうとも正常なる国家としての意志・姿勢を国民、そして諸外国に示し、ご英霊が望んだ誇りある祖国の姿を取り戻すことを求める。

また、戦没者遺族への処遇は逐年改善が図られているが、なお課題は山積している。一命を国家に捧げた戦没者の遺族に対する処遇は、今後とも国家補償の理念に基づき政府は改善に努力されたい。特に、戦没者の妻の立場を国が認め、その精神的痛苦に対して慰藉の意を表した「戦没者等の妻に対する特別給付金」は来年十月に最終償還を迎える。戦没者の妻にとって大きな心の支えである「妻の特

別給付金」の継続・増額は我々の最大の願いであり、あわせて、身寄りのない「戦没者の父母等に対する特別給付金」の継続・増額についても強く要望する。そのほか、全国戦没者追悼式への国費参列者の増員及び対象範囲の拡大や、戦没者遺児の慰霊友好親善事業などは国の慰藉事業であることから一層の充実を求める。更に、未だ海外等に残されている遺骨の祖国帰還は急務であり、積極的に遺骨帰還事業に取り組みべきである。

以上は、何れも我々戦没者遺族の切なる願いばかりである。しかし、今日の我が国は、国の礎となられたご英霊の尊い御心を忘れ、目先のことに捕らわれて本来あるべき姿を失っている。今こそ初心に立ちかえり、心ある国民と共に戦後政治を総括し、長い歴史と伝統に根差した真の日本復活に努めなければならない。

我々は、ここに岡山県戦没者遺族代表者大会を開催し、組織の総力を結集してこれら実現に向けて邁進する。

右宣言する。

平成二十四年十一月十七日

岡山県戦没者遺族代表者大会

決議

本日ここに岡山県戦没者遺族代表者大会を開催し、総力をあげて左記各項の実現を期する。

記

一、世界の恒久平和を目指し、戦争の悲惨さを戦後世代に語り継ぐこと。

一、総理・閣僚等の靖國神社参拝を求めると共に、国立戦没者追悼施設新設構想を断固阻止すること。

一、国家補償の理念に基づき遺族処遇を改善すると共に、妻・父母等への特別給付金を継続し増額すること。

一、慰霊友好親善事業の充実と、遺骨帰還事業等を拡充強化すること。

一、全国戦没者追悼式への国費参列者の増員及び対象範囲を拡大すること。

一、戦後政治を総括し、歴史と伝統に根差した真の日本復活に努めること。

平成二十四年十一月十七日

岡山県戦没者遺族代表者大会

硫黄島慰霊友好親善訪問団 追悼のことば

備前市日生町寒河 山下 桂 正

六十八年ぶりに、やっと親父のもとに來ることができました。というのも、十七年前に家族でサイパン島を訪ねておりまして。しかし、親父の戦死した場所を探しましたが分からず、残念な思いで島を後にしました。その後、母は寝たきりになり、平成十年（十二年前）に亡くなりました。

「もう一度、母を親父に会わせたい」という思いが強くなったのは、母の遺品の中から親父の手紙を見つけたことです。私は写真の親父しか知りませんが、親父の母への気持ち、家族への気持ち



父の慰霊祭に臨んだ山下さん（右側／10月5日）

が手紙に綴られていました。日本遺族会のお世話になり、今日ここに、親父の位牌と共に、母の遺骨を持つて参りました。親父、どうか母と一緒に居て下さい。

叔母は既に亡くなり、弟の芳一叔父さんも六月に九十三歳で亡くなりました。親父の兄妹は、今は美智子叔母さんがいるのみとなりました。私は七十一歳になりましたが、お蔭様で昭和四十五年に妻・浩世と結婚し、娘・順子、息子・真慶に恵まれ、その子供はいずれも所帯を持つて、真慶には長女の小桜、長男の一護と子供二人に恵まれて喜んでおります。

親父、どうか、これから母と共に安らかにお休み下さい。

桂正より。

遺族会の動き

平成二十四年十一月行事表

5日	笠岡市今井地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
6日	県連盟女性部正副部長会議（県連盟会議室）
7日	新見市豊永地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
9日	岡山市岡山遺族連合会研修旅行（島根県方面）
12日	瀬戸内市戦没者追悼式（ゆめトピア長船）
14日	新見市遺族連合会靖國神社団参（東京方面）二泊
16日	井原市美星地区遺族会靖國神社団参（東京方面）一泊
17日	都窪郡早島町戦没者追悼式（早島町中央公民館）
20日	県連盟創立六十五周年記念式典・県戦没者遺族代表者大会（岡山衛生会館）
22日	総社市戦没者慰霊祭（県護國神社）
25日	新見市千屋地区戦没者慰霊祭（県護國神社）
28日	沖繩戦跡慰霊巡拝／「岡山の塔」追悼式（沖繩県）二泊
5日	岡山市御津遺族連合会靖國神社団参（東京方面）二泊
8日	石井知事をねぎらう会（岡山プラザH）
11日	吉備中央町戦没者追悼式（ロマン高原かよう総合会館）
14日	浅口市郡遺族連合会女性部研修会（鴨方町内）
17日	平成二十四年十二月行事表
20日	県連盟役員・各市郡遺族連合会事務担当者合同研修会
23日	県護國神社境内清掃（県護國神社）

平成25年版

「靖國カレンダー」を家庭に掲げましょう

【靖國カレンダーの内容】

ご英霊にまつわる写真と逸話を掲載。大きさは縦54.5cm×横36cm。

【維持会費】

1部 500円（別途送料が必要）

【お申し込みは】

カレンダー送付先の住所、氏名、電話番号、注文部数下記までご連絡下さい。

〒703-8272

岡山市中区奥市3-21 岡山県護國神社内

「英霊にこたえる会岡山県本部」

電話 086-272-3017

FAX 086-272-3016